



TITLE:

アケビコノハ(ヤガ科)が2014年秋に
和歌山県白浜町に所在する京都大
学瀬戸臨海実験所"北浜"へ漂着

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. アケビコノハ(ヤガ科)が2014年秋に和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所"北浜"へ漂着. KINOKUNI 2014, 86: 24-24

ISSUE DATE:

2014-12-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/193660>

RIGHT:

© 和歌山昆虫研究会

アケビコノハ(ヤガ科)が2014年秋に和歌山県白浜町に 所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ漂着

Adris tyrannus (Noctuidae) washed ashore on “the Kitahama beach” of the Seto Marine Biological Laboratory,
Kyoto University in autumn in 2014

久保田 信

和歌山県田辺湾の湾口に位置する京都大学瀬戸臨海実験所の“北浜”に、アケビコノハ *Adris tyrannus* の翅がまとまって打ち上がることもある(久保田, 2009, 2013)。今回, 2014年10月18日夕方と19日早朝の2回の調査で、少なくとも数個体が漂着していたので記録する(図1)。この日の前後をはじめ2014年のいずれの日にも漂着は起こっていない。

今回の記録を入れてこれまでこの地点で3回の漂着があったことになるが、近年になるほどその時期が早まっている。これは地球温暖化と関連があるのかもしれない。

果実を吸汁するヤガ科の本種は、様々な果樹の実る秋多く発生するので、このことも関連があるのかもしれない。実験所構内およびその付近で本種の成体や幼虫を目撃したことはまだないが(久保田, 未発表)、当該地域では、“北浜”海岸への漂着が起こる、例えばコウモリ類や鳥類によって本種が捕食されることがあるものと推察される。現に実験所周辺にはこの様な捕食者候補が多種多様に生息している。

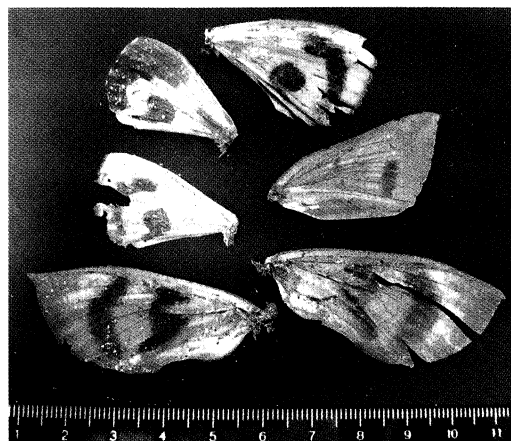


図1 2014年10月に北浜に漂着したアケビコノハ

引用文献

- 久保田 信. 2009. アケビコノハ(ヤガ科)複数個体が2008年11-12月に和歌山県田辺湾の浜辺へ漂着. KINOKUNI, (75): 5.
- 久保田 信. 2013. アケビコノハ(ヤガ科)の多数個体が2003年秋に和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ漂着. KINOKUNI, (84): 25.

(くばた しん 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)